

(別記)

## 2019 年度上天草市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

上天草市は、海に面し比較的温暖な気候に恵まれ、その立地条件の特性を生かし農畜産物の生産が行われてきたが、高齢化、兼業化によって農業の担い手不足が深刻化している。主食用水稲作付面積においては毎年減少し、転作作物面積の約半数を飼料用作物が占めている。小規模農家においては、自家消費用の作物生産が行われていたが、鳥獣害被害により不作付け、休耕地帯化している。

しかし、一部の地区での区画整備及び団地化された農地では、担い手により農産物の生産が積極的に行われており、更に、水田の遊休農地・不作付地の整備で、意欲ある担い手への集約、大型機械化による農地の有効活用を図る必要がある。

### 2 作物ごとの取組方針等

市内の約490ha（不作地を含む）の水田について産地交付金を含めた水田活用の直接支払交付金等を有効に活用する。

#### (1) 主食用米

需要に応じた生産を行うため、作付目安の範囲内での生産を確保し、減農薬、有機肥料による米作りの取り組みで、需要に見合った生産を行い、学校給食、地元消費者への地産地消を促し、消費者の安全・安心を目指し、生産振興を図る。

#### (2) 非主食用米

飼料用米・WCS用稲

多収品種、専用品種の取組みと畜産農家と連携した堆肥還元による肥料の増肥と、適期収穫により単収の向上を図り、適正流通と良質飼料・自給飼料確保のため契約事項の厳守と指導を行う。

また、飼料用米（SGS）作付の拡大と、WCS用稲については現状維持を図る。

#### (3) 麦、飼料作物

麦については、主に団地化された干拓地に基幹作物として作付けされている。排水設備、成育管理が課題であり、今後とも産地交付金を活用し、団地化の支援を行いながら省力肥料・土壌改良材投入の検討、適期除草の実施で生産効率を上げるとともに排水設備の導入で品質の向上及び収穫量の増加を目指す。

飼料作物は、畜産・酪農家が主に自家家畜への給与のための作付けを行っている。今後、産地交付金の活用で基幹作と合わせ、二毛作の作付拡大と、不作付地・遊休農地の整備や開発により良質粗飼料の増産と生産コストの低減を図る。

#### (4) 高収益作物（園芸作物等）

農家の生産意欲、所得向上に向け、産地交付金の支援を行う。

##### ア 野菜

温暖な気候条件を生かし、健康安心志向等消費者ニーズに応える高品質農産物を、安定的に供給できるよう環境保全型農業推進し、生産基盤の整備や新技術の導入を図り、労力の低減、高品質、低コスト生産を図る。

##### イ 花卉

高品質、周年、低コスト生産を図るため施設の高度化、省力機械の導入を推進し、ほ場の排水対策等により生産基盤を改善し、ブランド化された品目の推進、規格の統一・流通体系・販売対策の充実強化を図る。

##### ウ 果樹、花木

植栽年度より、2年間助成対象作物とし、その後は永年作物として管理する。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	219.1ha 916.4t	233ha 987.6t	230.0ha 966.0t
飼料用米	1.0	2.5	3.0
WCS用稲	29.9	30	30
麦	16.3	16.3	16.3
飼料作物（基幹）	6.2	9.0	9.0
二毛作	8.2	6.0	6.0
その他地域振興作物	31.1	36.0	37.0
野菜	18.5	21.0	22.0
花卉	8.9	11.0	11.0
果樹	1.2	2.0	2.0
その他作物	2.5	2.0	2.0

※主食用米の目標値（2019、2020年度）において使用した単収は 420kg/10a

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2018年度	2020年度
1	キュウリ、タマネギ、レタス、カスミソウ、トルコギキョウ	高収益作物への助成（基幹）	高収益作物作付面積	1,306a	1,400a
2	地域振興作物（上記以外の品目）	地域振興作物への助成（基幹）	地域振興作物作付面積	1,293a	(1,700a) 1,300a
3	野菜、花卉、花木、果樹、タバコ、その他作物	高収益作物、地域振興作物担い手加算助成（基幹）	高収益対象作物のうち担い手作付面積	1,951a	(1,150a) 2,050a
4	飼料作物（二毛作）	飼料作物二毛作助成（二毛作）	飼料作物（二毛作）作付面積	776a	(600a) 850a
			水田活用率（不作付地除く）	103.52%	(102.95%) 103.76%
5	WCS用稲（基幹作）	資源循環の助成（耕畜連携）（基幹）	堆肥還元率	24.98%	(40%) 27.19%
			資源循環（耕畜連携）取組面積	781a	(1,300a) 850a
6	小麦（基幹）	小麦団地化助成（基幹）	反収	217kg/10a	(193kg/10a) 240kg/10a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）